

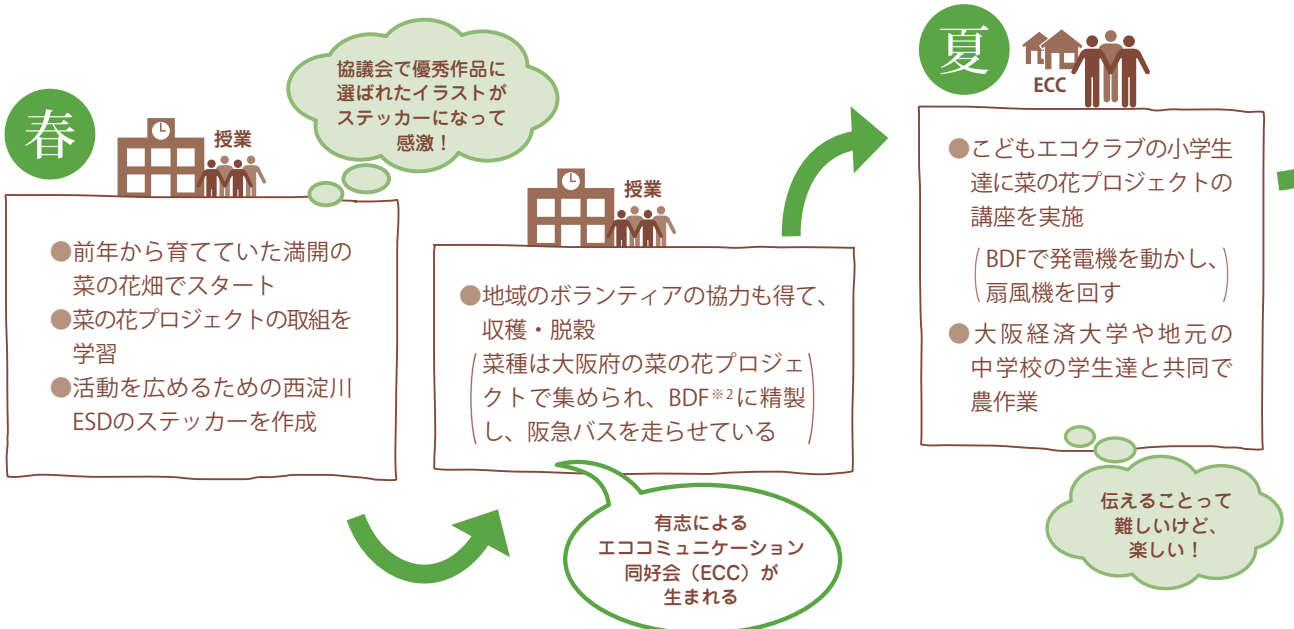
「活動」を生み出す「学び」

ところで、持続可能な社会をつくるための「活動」と、持続可能な社会をつくるための「学び (ESD)」は同じなのでしょうか？ 異なるのでしょうか？ ここで線を引くのは、なかなか難しいことです。

例えば、大阪の「西淀川ESD協議会」では、高校、大学、ガールスカウトなど、協議会の様々なメンバーが「菜の花プロジェクト」を取り入れながら、交通まちづくりについて考える事業に取り組んでいます。協議会メンバーである大阪府立西淀川高校では、必修科目「環境」の授業で「菜の花プロジェクト」^{※1}に挑戦。そこから生まれたエココミュニケーション同好会 (ECC) は、他の協議会メンバーとつながりながら、地域に活動の場を広げ、そこで大きく成長しています。

西淀川高校のESD

〈生徒達の変化〉

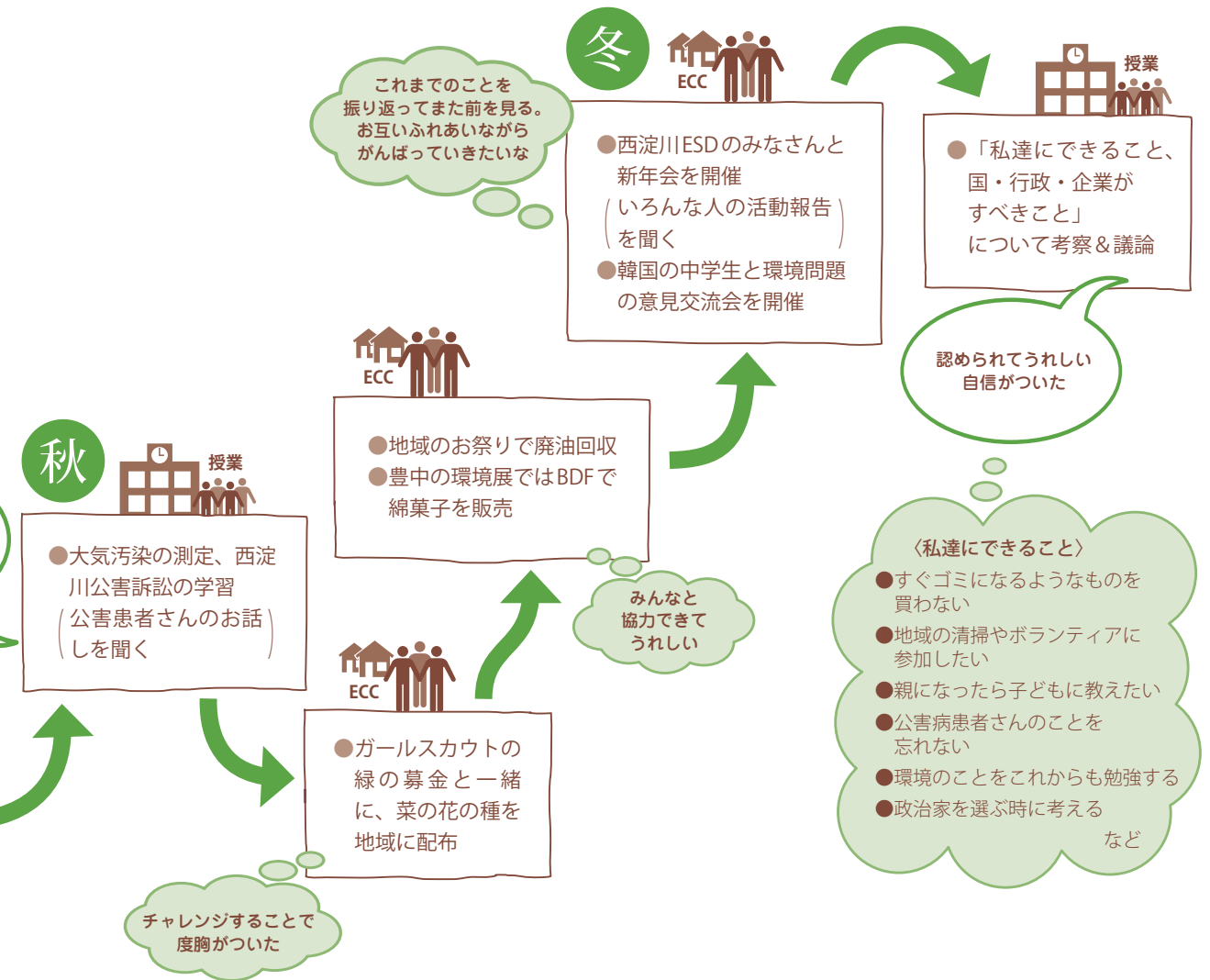


※1 菜の花プロジェクトとは

菜の花を育て、その油で料理をし、その廃油でクルマを走らせ、出たCO₂を菜の花が吸収という、循環型のプロジェクト。全国に広まっている。

※2 BDF (Bio Diesel Fuel) とは

バイオディーゼル燃料：動植物性油脂由来の代替燃料で、ディーゼルエンジンを有する車両、船舶、農耕機具、発電機等に使用されている。環境問題の解決策として世界中で注目を浴びている。



このように、ESDは「活動」を生み出す「学び」であり、また、「活動」を通して生まれる「学び」でもあります。

ESDは単に知識を獲得する場ではありません。

- 実際に体験して感じる・考える・そしてそれらを共有する
 - 多様な立場の人の意見や考え方を学びあう
 - 異なる価値観や意見を認め合いながら、合意や活動を生み出していく
- といった、参加体験型・問題解決型の手法が取り入れられていることで「活動を生み出す学び」が実現できているのです。

持続可能な交通まちづくり市民会議

大阪市西淀川区は大気汚染公害で悩まされた地域。教育機関・NPO・自治組織など様々な組織が一緒になって、「交通まちづくり市民会議」を設置しました。多くの市民に交通まちづくりに参加してもらえるよう、各団体が情報共有を進めながら、フードマイレージゲーム、自転車マップや菜の花プロジェクトなどの取組を地域に広げました。

持続可能な交通まちづくり市民会議



ESD促進事業をきっかけに、持続可能な交通まちづくり市民会議は生まれました。立ち上げ当初、事務局を担ったあおぞら財団は、行政、社会教育施設や自治会組織などに説明を兼ねてヒアリングに何度も通い、相手のニーズや課題を把握しながら、地道につながりをつくっていきました。市民会議が発足してからも、メーリングリストやブログを活用して情報共有を進め、また、会議の欠席者には個別に説明に通うなど、丁寧なコミュニケーションを心がけています。

菜の花プロジェクトでつながる



大阪府立西淀川高校が取り組み始めた菜の花プロジェクトは、学校、大学やガールスカウトなど様々な協議会メンバーに広がり、異年齢集団が一緒に活動を行う場が生まれました。大学生が高校生に、高校生が小学生に教える中で、しっかりしようという自覚が芽生えてきたり、また、中学生の頑張りが高校性を刺激したり、小学生のはつらつとした姿に高校生も頑張ろうと思えたり、互いに教え、教えられる場面で生まれる刺激で、お互いが元気になっていきます。そして、これらすべての活動に必ず専任スタッフ(大学院生)が参加し、各団体の橋渡し役になり、子ども達の信頼を得たことで、その効果を高めることができました。

